

平成20年度

# 金沢市埋蔵文化財調査年報

平成21年  
(2009年)

金 沢 市  
(金沢市埋蔵文化財センター)

## 例 言

1. 本書は、金沢市都市政策局歴史遺産保存部文化財保護課および金沢市埋蔵文化財センターが平成20年度に行った埋蔵文化財保護行政の概要、成果および結果を公表することを目的として刊行するものである。
2. 本書は、平成20年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査、分布調査、および教育・普及・啓発活動に関することを中心に編集したものである。
3. 本書に掲載した埋蔵文化財の遺構・遺物等の写真は、それぞれの担当者が撮影した。

## 目 次

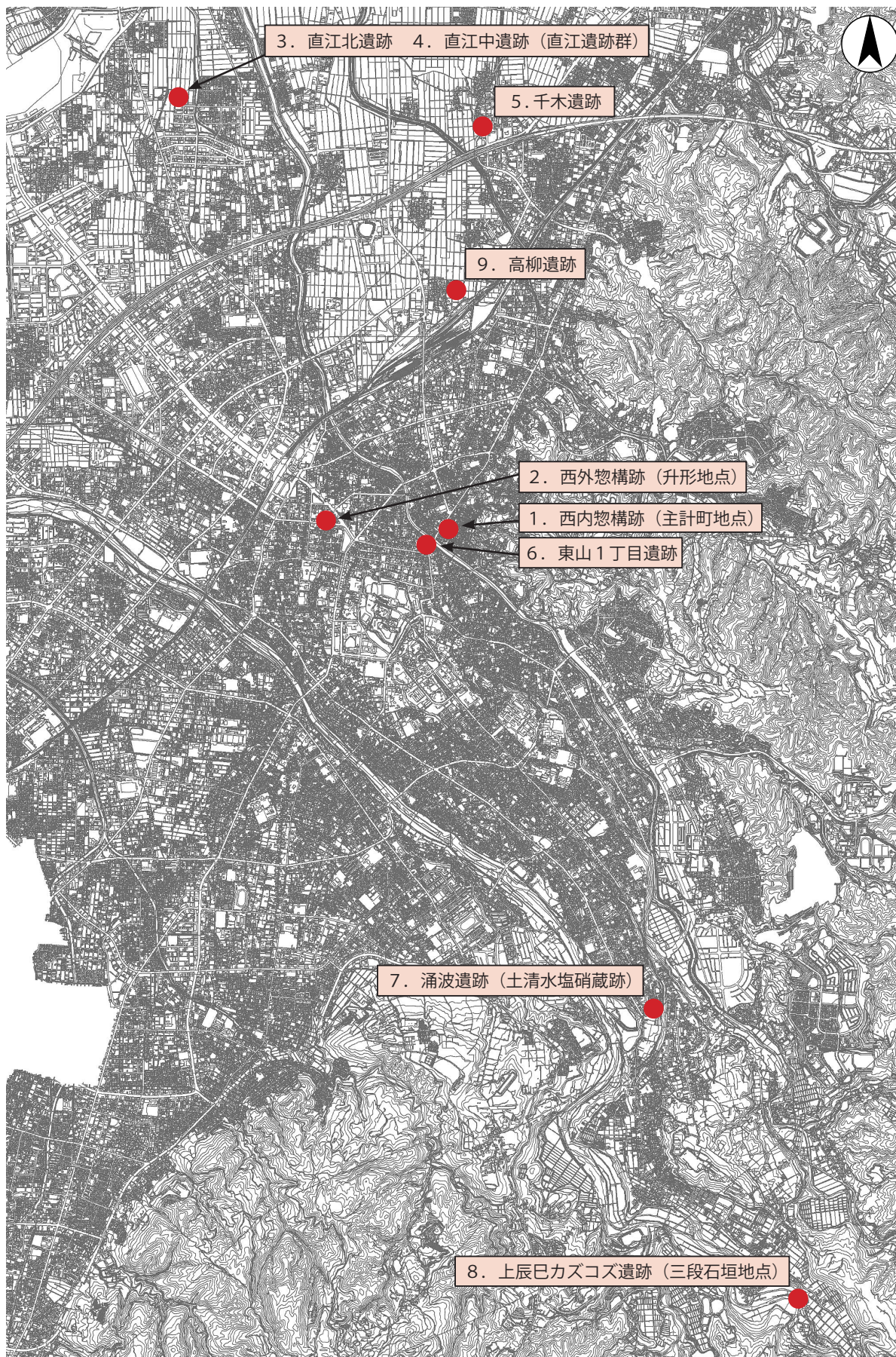
1. 埋蔵文化財発掘調査事業	1
2. 埋蔵文化財分布調査事業	17
3. 教育・普及・啓発活動事業	21
4. 組織	25

# 1. 埋蔵文化財発掘調査事業

## (1) 平成20年度金沢市埋蔵文化財発掘調査一覧

No.	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費 (千円)	出土 遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
<b>西内惣構跡 (主計町地点)</b>										
1	金沢市 主計町地内	68㎡	学術調査 (公 共)	20080701 ～ 20090311	河岸段丘	4,195	15 箱	中世・近世	堀・石積	近世陶磁器・土器・ 加賀焼・鉄滓
<b>西外惣構跡 (升形地点)</b>										
2	金沢市 本町1丁目地内	40㎡	学術調査 (公 共)	20080728 ～ 20080808	沖積地	2,325 (土地借上げ 代含む)	4 箱	中世・近世	堀・石積	近世陶磁器
<b>直江北遺跡【直江遺跡群】</b>										
3	金沢市 直江町地内	3,170 ㎡	区画整理 (民 間)	20080916 ～ 20081219	沖積地	41,130 (4 を含む)	100 箱	縄文・弥生 古墳・古代 中世	建物・井戸・ 溝	土器・須恵器・陶 磁器・木製品・漆 製品・石製品
<b>直江中遺跡【直江遺跡群】</b>										
4	金沢市 直江町地内	2,830 ㎡	区画整理 (民 間)	20080730 ～ 20081208	沖積地	41,130 (3 を含む)	100 箱	縄文・弥生 古代・中世	建物・井戸・ 溝・川	土器・須恵器・陶 磁器・木製品・石 製品・金属製品
<b>千木遺跡</b>										
5	金沢市 千木町力地内	1,050 ㎡	宅地造成 (民 間)	20080908 ～ 20081017	沖積地	3,934 (報告書印刷 費含む)	4 箱	古代・中世	建物・土坑・ 溝	須恵器・土師器・ 陶磁器・銅造地藏 菩薩立像
<b>東山1丁目遺跡</b>										
6	金沢市 東山1丁目地内	340㎡	資料館建設 (公 共)	20080926 ～ 20081211	河岸段丘	5,330	40 箱	中世・近世	井戸・土坑	近世陶磁器・土器・ 鉄滓・木製品・珠 洲焼
<b>涌波遺跡 (土清水塩硝蔵跡)</b>										
7	金沢市 涌波町地内	100㎡	学術調査 (公 共)	20081030 ～ 20081212	河岸段丘	2,400 (土地借上げ 代含む)	40 箱	近世	堀・土蔵跡	近世赤瓦・陶磁器
<b>上辰巳カズコズ遺跡 (三段石垣地点)</b>										
8	金沢市 上辰巳町地内	40㎡	学術調査 (公 共)	20081125 ～ 20081208	河岸段丘	2,378 (報告書印刷 費含む)	0 箱	近世	石積み	
<b>高柳遺跡</b>										
9	金沢市 高柳町地内	710㎡	道路建設 (公 共)	20090106 ～ 20090122	沖積地	490	1 箱	古墳・古代 中世	柱穴・溝	土師器・珠洲焼・ 木製品・漆製品

## (2) 埋蔵文化財発掘調査位置



### (3) 埋蔵文化財発掘調査概要

#### にしうちそうがまえあと かずえまち 1. 西内惣構跡 (主計町地点)

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市主計町地内

北緯 36° 34' 23"

東経 136° 39' 44"

調査面積：68㎡

種 別：城下町・惣構

主な時代：近世・中世

担 当：庄田 主任主事



#### 遺跡の概要

金沢城惣構跡は、金沢城を中心として城下町を取り囲んだ東西それぞれ二重の惣構で、おもに堀と土居の遺構からなる。平成 20 年 12 月 26 日には、主に公有地として管理されている堀跡と土居跡、虎口、内道を金沢市史跡として指定している。

西内惣構跡は、金沢市中心部の金沢城西側、現在の尾山神社南辺付近を起点として北上し、近江町・母衣町を経て浅野川大橋北西の主計町へ至り、浅野川へ掘水が注ぐ。

発掘調査は、主計町緑水苑<sup>りよくすいえん</sup>において、平成 20 年 7～8 月、12 月、平成 21 年 3 月の 3 回に分けて実施し、計 9 箇所<sup>りよくすいえん</sup>の試掘坑を設定した。堀の土居側（城側）では、基盤層を掘り込む堀から土居にかけての斜面を確認し、堀の城から見て外側では、深さ 2.1～2.6 m の深度（試掘坑により異なる）まで盛土層および基盤層に掘り込む堀斜面とその埋め土を確認した。

調査の結果、①江戸時代初期以前の主計町緑水苑内は浅野川の川原の状態であったこと、②堀は、17 世紀前半代の川原埋め立てに伴い現在の堤防に近い位置まで伸ばされていること、③ 17 世紀中頃以降、洪水等で埋没しては再び同位置（堀幅約 11 m）で堀を作り直していたことが判明した。

金沢市では、本調査結果を受けて、主計町緑水苑内において、平成 21 年度事業として惣構の景観復元を中心とした史跡整備を行う予定である。



カーブ部分の土居側斜面と堀の埋め土



堀外側の堀埋め土と堀底の石積み (左奥)  
石積み土坑 (手前)

にしそとそうがまえあと ますがた  
**2. 西外惣構跡（升形地点）**

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市本町1丁目地内

北緯 36° 34' 24"

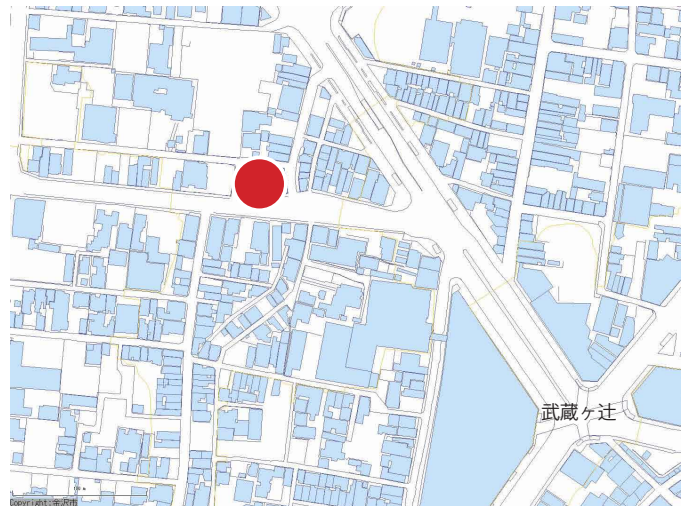
東経 136° 39' 19"

調査面積：40㎡

種別：城下町・惣構

主な時代：近世・中世

担当：谷口 主査



### 遺跡の概要

金沢市は平成20年7月28日から8月8日の期間で金沢城西外惣構跡の升形について調査を行った。金沢では升形は北国街道の北の出口である橋場町にもあったと言われているが、現在確認できるのは本町の升形のみである。東西に12m、南北に8m、幅はそれぞれ2mの合計40㎡についてトレンチ調査を実施した。

東西トレンチ上層では近代の穴や攪乱などが多く見受けられ、升形に関連した遺構は確認していない。西端では石垣を検出した。検出した高さは0.9m、幅は0.6mである。現在の道路にほぼ並行するように設けられており、升形地点の堀の肩と判断した。調査区に隣接する現在の道路の位置が金沢町絵図（文政6・1823年）にある道とほぼ一致することから、道路の端を掘肩と推定すると、石垣と道路の幅は約5mとなる。出土した遺物から、江戸終末期から明治初頭の頃に埋まったとみられる。南北トレンチの北端では大きく落ち込む築造当初の堀の肩を確認した。

今回の調査で判明したことをまとめてみる。第1に升形の存在を発掘調査により明らかにすることができた。築造当初は素掘りで石垣は設けられていなかった可能性が高い。第2に堀は江戸時代に段階的に埋められ、明治期に完全に消失している。升形の機能は江戸時代に段階的に失われ、明治期に入ってから道路用地・宅地にならったのであろう。第3に升形地点には石垣が設けられていたことが確認された。土居の構造は明らかではないが、少なくとも街道の出入りを監視する升形の構造は堅牢になるよう意識していたものと考えられる。

惣構に関する調査は今後も予定されており、近い将来、升形の全貌が明らかになるであろう。



調査地点全景



石垣検出時の状況

### 3. <sup>なおえきた</sup>直江北遺跡（直江遺跡群）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町地内

北緯 36° 35′ 1″

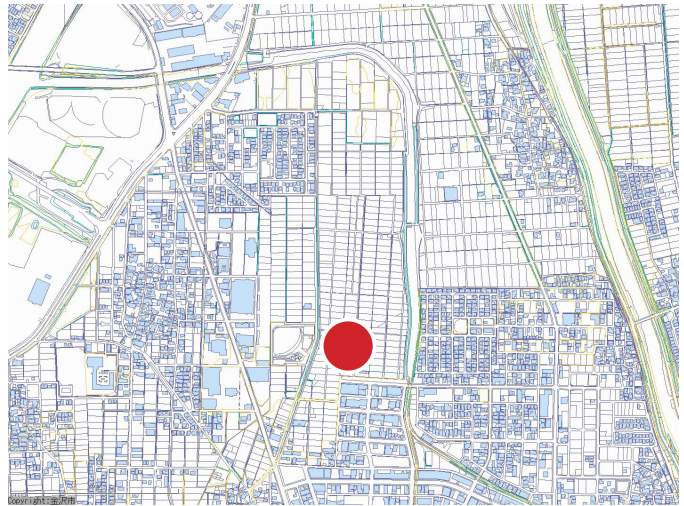
東経 136° 44′ 51″

調査面積：3,170㎡

種 別：集落跡

主な時代：縄文～中世

担 当：新出 主任主事 向井 主任主事



#### 遺跡の概要

本遺跡は、金沢市北西部に所在しており、日本海へは約 3km、河北潟と日本海を結ぶ大野川へは約 1kmの距離という臨海地帯に立地する。調査着手前は水田地帯で、近傍に県道近岡・諸江線が通り、南で問屋団地に隣接し、幅 2 m 前後の用水を挟んだ西向いには鞍月中央公園が位置する。金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴い平成 19 年度に引き続き発掘調査を実施した。

調査は昨年度に実施した外環状道路側道（都市計画道路 福久・福増線）部分に隣接して設置される仮設小水路 2ヶ所及び現用水の一時切り替えに伴う仮設水路の 3ヶ所について実施している。仮設小水路地区は東仮溝地区と西仮溝地区、仮設水路地区は北区、中区、南区の調査区名を設定した。

東仮溝地区では弥生時代終末期～古墳時代初頭頃の溝を検出した。溝上層部から大量の土器が出土している。周囲には木柱を伴う柱穴を検出しているが、調査区が狭小であるために建物の詳細は不明であった。

西仮溝地区では昨年度調査で検出している弥生時代中期後半の溝 2 条の延長部分を検出したが、他の遺構は希薄であった。

仮設水路北区では、調査区の北半で弥生時代中期後半の溝が検出されたが、遺構は希薄であった。調査区中央付近には弥生時代末から古墳時代初頭頃の溝が検出されており、多数の土器が出土している。そして、その溝より南側で掘立柱建物や布堀建物、土坑などが密に検出され、古墳時代前期の甕が完形で出土した井戸状土坑などもみついている。大半は弥生時代末から古墳時代前期頃の遺構と考えられるが、部分的に古代や中世の土坑、溝などが検出されている。特に大型の方形土坑から 12・13 世紀の土器などと共に烏帽子状の漆塗製品が出土しており注目される。

仮設水路中区では、大きく湾曲する弥生時代末から古墳時代初頭の土器が多数出土した溝を検出した。この溝の下に土坑が 1 基みついている。この他、前述の溝の外側に同時期の小溝が 1 条検出されている。調査区の南側では平成 19 年度に検出した縄文時代晩期に属する川の延長部分を検出した。

仮設水路南区では、昨年度調査区に引き続き縄文時代晩期後半の川を検出している。また同時期の土坑群が川岸付近で検出された。土坑群からは縄文土器の他、クルミなどの植物遺体も出土している。他に弥生時代末から古墳時代にかけての溝を検出している。



弥生～古墳時代の溝 (SD150・仮設水路中区)



弥生～古墳時代の溝 (SD135・東仮溝区)



中世の土坑 (SK92・仮設水路北区)



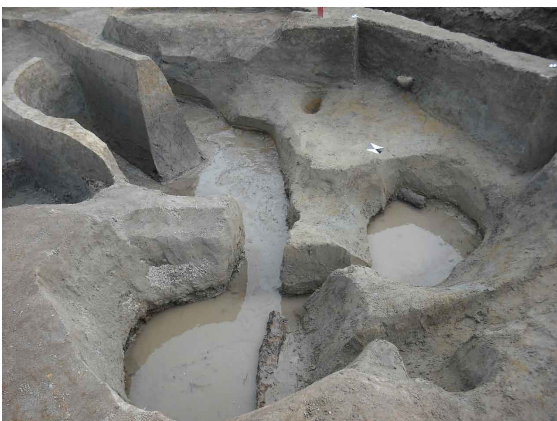
烏帽子状漆製品 (SK92・仮設水路北区)



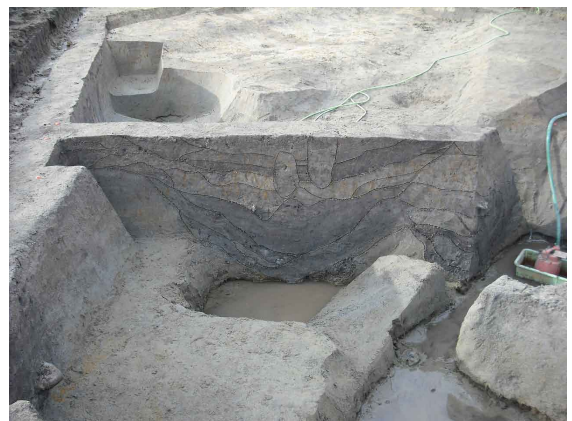
古墳時代の土坑 (SK90・仮設水路北区)



弥生～古墳時代の溝 (SD140・仮設水路北区)



縄文時代の土坑群 (仮設水路南区)



縄文時代の土坑 (SK106・仮設水路南区)



#### 4. <sup>なお え なか</sup>直江中遺跡（直江遺跡群）

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市直江町地内

北緯 36° 36′ 28″

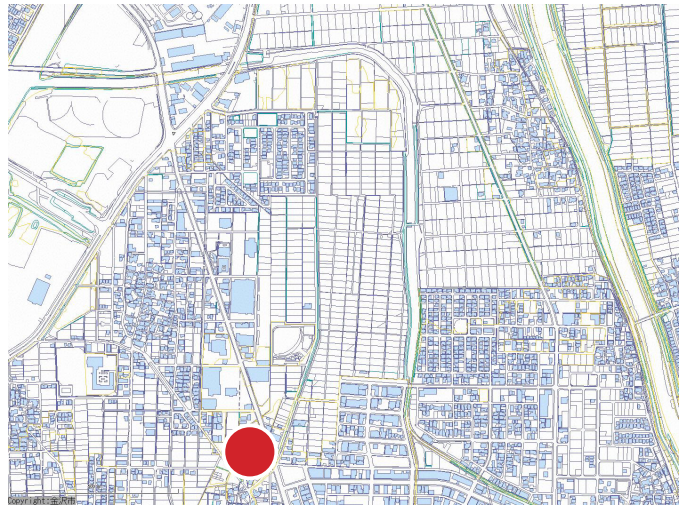
東経 136° 37′ 60″

調査面積：2,830㎡

種 別：集落跡

主な時代：縄文・弥生・古代・中世

担 当：新出 主任主事 向井 主任主事



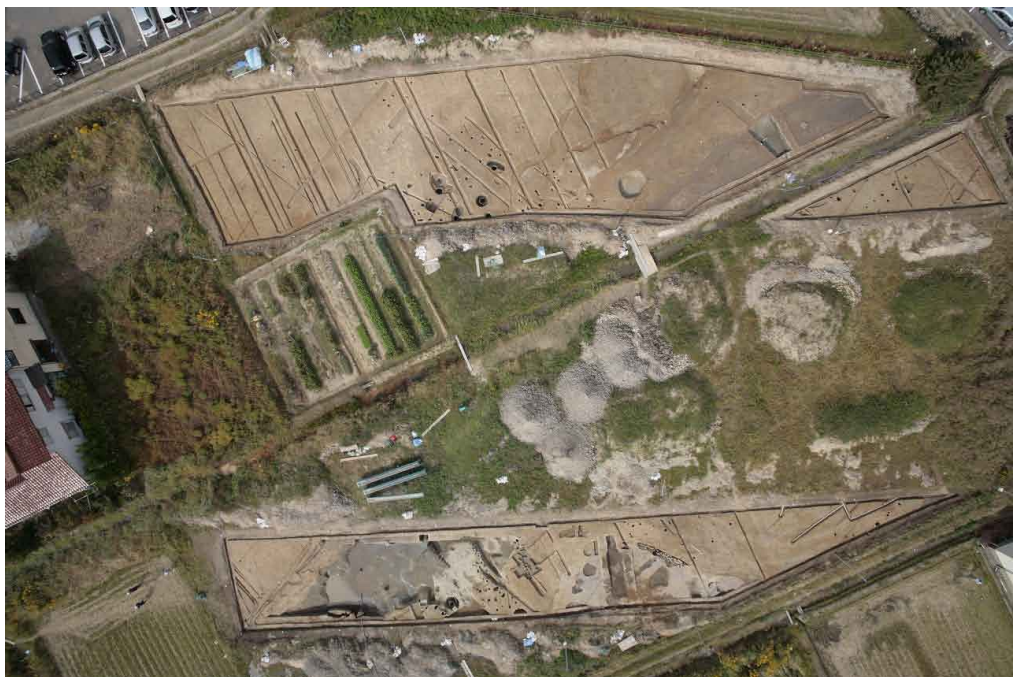
#### 遺跡の概要

本遺跡は、直江北遺跡から南西方向に約 200 m の位置に所在し、縄文時代晩期から近世までの遺構・遺物を確認している集落遺跡である。中心時期は鎌倉時代から南北朝時代頃で、他の時代は少ない。

調査区は外環状道路側道（都市計画道路 福久・福増線）部分に該当し、位置関係から西区と東区を設定している。

西区では、鎌倉時代から南北朝時代頃の掘立柱建物や井戸、土坑、区画溝などが検出されている。井戸は曲物を用いたものがほとんどであり、1基のみ横棧と隅柱を用いたものがあつたが、縦板については残っていなかった。曲物は、3段ほどを用いたものが多かった。他に近世の川の一部を検出している。

東区では、鎌倉時代から室町時代頃の川などを検出している。他に縄文時代晩期の落ち込みや古代の溝などを検出している。鎌倉・室町時代の川からは 13 世紀から 15 世紀頃の土器や陶磁器、漆器などが出土している。この川は西区でも一部検出している近世の川と重複しているために、その詳細な規模は不明である。川岸から川の内部にかけて柱および杭と横板を設けた遺構を確認しており、何らかの治水施設と考えている。この川付近では川に流れ込む溝や井戸などを確認しており、川周辺から西区の掘立柱建物、井戸周辺までが集落域として捉えることができる。



調査区全景



調査区遠景（東より）



中世の掘立柱建物と井戸（西区）



中世と近世の川（SD01,02・東区）



中世の井戸（SE04・西区）



中世と近世の川（SD01,02・東区）



中世の井戸（SE07・西区）



中世の治水施設か（SA04・東区）

## 5. <sup>せんぎ</sup>千木遺跡

〈遺跡番号 新発見のため無し〉

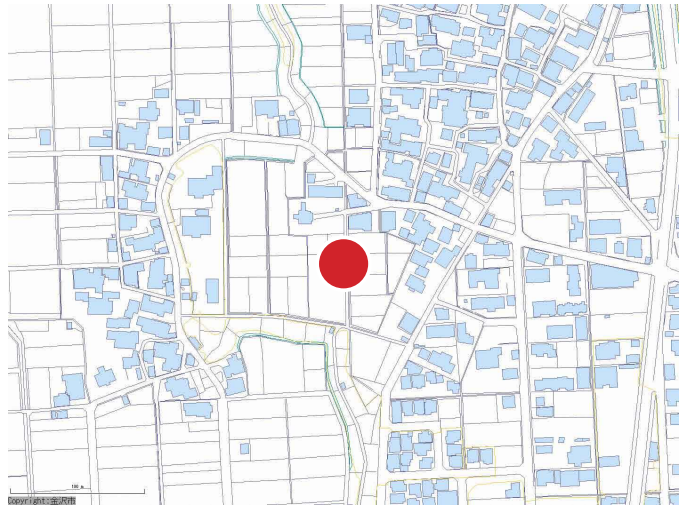
所在地：金沢市千木町地内  
北緯 36° 36′ 36″  
東経 136° 40′ 6″

調査面積：1,050m<sup>2</sup>

種 別：集落跡

主な時代：奈良・平安時代、中世

担 当：谷口 主任主事



### 遺跡の概要

千木遺跡は金沢市の北部、金沢市街地の中心に位置する金沢市役所から北方約 9km に所在する。周辺は浅野川や金<sup>かなくさり</sup>腐川およびそれらの支流により形成された沖積地で、強い粘土質の地質であるために水捌けが非常に悪い。周辺域の河川は市域の北端に位置する河北潟に流れ込んでおり、潟に面する地帯である当地は海拔が低く、現在は治水が進んでいるがかつては水害の多い地域であった。周辺は河川と河川の間に潟（海）方向へ微高地が延びる地形となっており、微高地上にいくつかの遺跡が立地している。千木遺跡もその中の一である。

千木遺跡の発掘調査は民間宅地造成に伴い実施したものである。調査は宅地造成範囲内における街路部分を対象に実施し、東西に長い逆 L 字形の調査区を設定した。調査区は現用農道により 3 分され、西から A 区・B 区・C 区との名称を付した。遺跡は B 区から C 区西半を占める幅約 50m の河川跡 SD06 を境界として、西側の A 区に奈良・平安時代の、東側の C 区に鎌倉～室町時代の遺構が分布している。本遺跡の画期はこの 2 時期に置かれると見ることができる。

B 区～C 区で検出した SD06 は本遺跡の南西約 500m を流れる金腐川の支流跡である。地形図を見ると、南から千木遺跡へ向かい遺跡の立地する水田一帯の西方をコの字型に迂回して再び北方向へ流れる金腐川支流跡の地形が見て取れるが、SD06 はこの河川跡が直線的に流れた場合の流路上に位置することになる。もともとは直線的に流れていた河川がある時期に何らかの理由により西方へコ字状に迂回したもので、その時期は SD06 の埋没と密接に関わる可能性が高い。今回の調査では SD06 からの出土遺物が極端に少なかったため现阶段では廃棄時期の特定が難しいが、遺跡の画期においては SD06 が集落の境界として機能していたことを示唆するといえよう。

SD06 の左岸にあたる A 区は奈良・平安時代の集落跡で、掘立柱建物跡 2 棟を検出したほか、多数のピットが集中し、土坑 6 基、溝状遺構 4 条を併せて検出している。掘立柱建物跡 SB01 と SB02 は前者がやや新しい様相を示す。この他、多数のピットが検出されている状況から、調査区外への掘立柱建物の拡がりが見込まれる。A 区の出土遺物は 9 世紀代が中心で、千木遺跡の南方約 1km に位置する地方支配勢力の居館跡とされる千木ヤシキダ遺跡が画期を迎える 10 世紀代の直前期に周囲に衛星的に立地していた集落の一であると考えられる。

SD06 の左岸にあたる C 区は中世の集落跡である。遺物自体は 13 世紀代のものから見られるが、中心は 14 世紀後半から 15 世紀代と考えられる。掘立柱建物跡 2 棟を検出しており、うち SB03 からは 9 本の柱根の出土を見たが、SB04 と同様に遺物の出土が無く、時期の特定は難しい。土坑については、出土遺物から SK06・SK07・SK09 が 14 世紀後半から 15 世紀の年代観が与えられる。SK06

からは聖宋元宝が出土しており、貨幣による経済活動の様相を示唆するものといえる。曲物が出土したSK12からは共伴遺物として銅像地藏菩薩立像1体が出土している。

銅像地藏菩薩立像は像高9.7cmの小像で、錫の含有量の少ない青銅を一鑄で鑄出す。表面の腐食が激しく、背面上部には火中によると思われる表面剥離があり、正面と背面の2箇所に鍍金の痕跡が僅かに認められる。右手持物（錫杖か）・光背（柄付き頭光か）・蓮華座より下の台座は欠失する。朽損により当初の姿が見えないため正確な年代判定は困難であるが、

①頭部をやや前に突き出した扁平な体軀、肉のそげた胸部、省略ぎみに線刻された衣文などの特徴から、平安時代後期の作

②総体に洗練さに欠ける粗雑な鑄造法と作風がみられ、右手首の角度から当初より右手に錫杖をとる像容と認められる点などから、中世に入ってから模古作

の2つの可能性がある。北陸地方は15世紀後半に一向宗の布教活動が加速し長享2年(1488)の長享の一揆に至ってその勢力が地方支配体制の頂点に達するが、これ以前における仏教勢力の情勢を考慮する上で本像は非常に興味深い資料である。寺院などの信仰関連施設との接触の機会がある集落の存在が想定される。

※なお、銅像地藏菩薩立像については、緒方啓介氏（東京芸術大学美術学部附属古美術研究施設）の調査による所見に基づいた。



奈良・平安時代の柱穴群 (A区)



中世の柱穴群 (C区)



SK12 (C区)



銅造地藏菩薩立像

ひがしやま

## 6. 東山1丁目遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市東山1丁目地内

北緯 36° 34' 24"

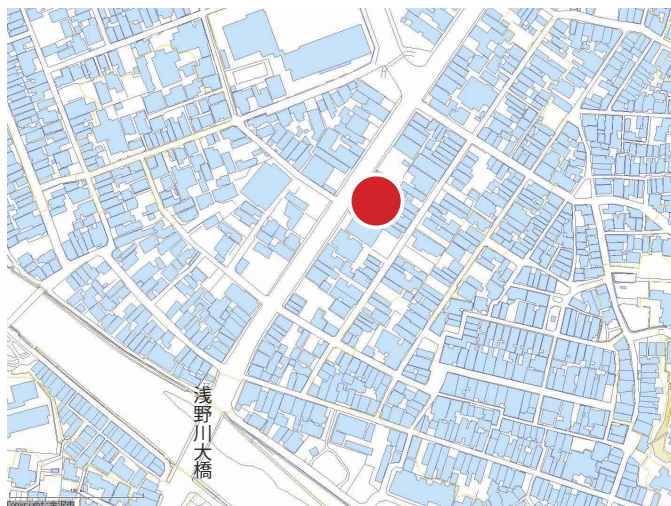
東経 136° 39' 56"

調査面積：340㎡

種別：城下町

主な時代：近世・中世

担当：庄田 主任主事



### 遺跡の概要

本遺跡は金沢市街地内の北部、浅野川大橋に近い東山1丁目（旧森下町<sup>もりもと</sup>）にあり、国道359号線（旧北国街道）に面している。安江金箔工芸館移転新築工事に先立って記録保存のための緊急発掘を実施した。事業地は、間口5～6m前後の地割をもつ奥行き深い宅地6軒分で、そのうち工事が遺跡に影響する北側と南側の3軒分が調査の対象となった。

調査地は、寛文7年（1667）の城下図では町屋、文化8年（1811）の町絵図でも森下町となっており、江戸期を通して北国街道筋の町屋だったと考えられる。前面の国道359号線は、近代以降2車線分が調査地側に拡張されたことから、敷地は江戸期の町屋の中程から後部分ということになる。

発掘調査の結果、現地表下約20cmの深度から約1.4～1.9m以上の厚さにわたり床面と考えられる粘土層と整地土層・焼土層等が繰り返し堆積していたと考えられる。南区は間口約5.5mの住居跡で、建物礎石のほか素掘り井戸1基、室と推定される推定方形の石組み遺構と桶組井戸各1基等を確認した。北区は2軒分の地割を持ち、地境と推定される位置には、年代の異なる5基の井戸跡を確認し、そのうち2基では桶組井枠の痕跡が残っていた。また、調査区北辺において奥行き方向に伸びる石積みの排水溝を検出した。排水溝は、裏通りの木町側の町屋との背割り溝へ排水するもので、石積みの状況から、何回か改修している。排水溝の北西辺に接して、大量の固結した鉄滓層と炉跡を確認した。最下層の生活面では、寛永期（1630年代前後）の遺物を大量に含む土坑を確認しており、鉄滓やふいご羽口といった鍛冶による廃棄物が大量に出土していることから、17世紀前半代には鍛冶を生業とする職人が居住していたと考えられる。



石積の排水路と鍛冶炉跡（手前左）



寛永期の土坑から出土した肥前産陶器の向付

つちょうずえんしょうぐらあと わくなみ  
**6. 土清水塩硝蔵跡（涌波遺跡）**

〈遺跡番号 新発見のため無し〉

所在地：金沢市涌波町地内

北緯 36° 34′ 24″

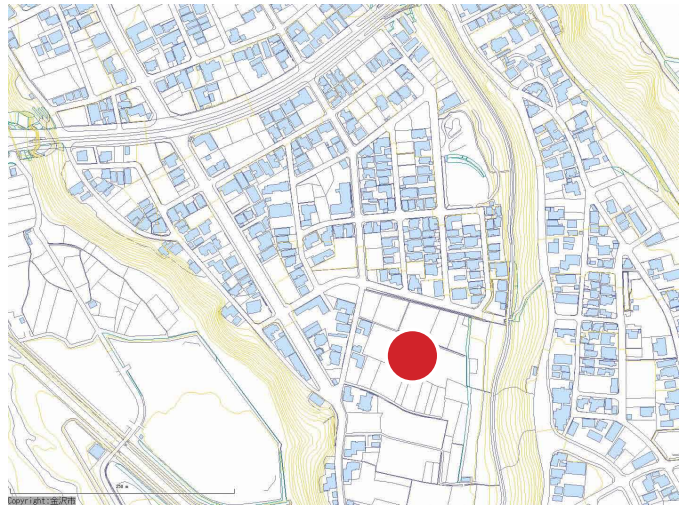
東経 136° 39′ 56″

調査面積：1 0 0 m<sup>2</sup>

種 別：塩硝蔵跡

主な時代：近世

担 当：谷口 主任主事



### 遺跡の概要

土清水塩硝蔵は、藩政期において加賀藩が設立した黒色火薬製造施設である。現在の金沢市涌波町、涌波1丁目、土清水1丁目地内に所在し、敷地面積は幕末時点で11万m<sup>2</sup>を超えると推定されている。敷地内には加賀藩領内で生産された黒色火薬の原材料が集積され、敷地内を流れる辰巳用水の水流を利用して黒色火薬への加工が行われていた。土清水塩硝蔵設立の歴史的経緯や黒色火薬の製造工程等は平成19年度金沢市埋蔵文化財調査年報を参照願いたい。

【平成19年度金沢市埋蔵文化財調査年報 [画面用 \(PDF 0.99MB\)](#) [印刷用 \(PDF 7.05MB\)](#)】

土清水塩硝蔵は加賀藩の軍事機密に直結するため、残された文献史料も数量が限られている。その中で藩政期当時の姿を描いた絵図類は以下の4点が確認されている。

絵図A. 「辰巳用水絵図」 文化6年(1809) (石川県立歴史博物館蔵)

絵図B. 「塩硝御蔵御絵図」 天保3年(1832) (金沢市立玉川図書館蔵)

絵図C. 「辰巳用水長巻図」 天保5年(1834) (石川県立歴史博物館蔵)

絵図D. 「土清水製薬所絵図」 幕末～明治初期 (石川県立歴史博物館蔵)

このうち、絵図Dは土清水塩硝蔵が廃止される直前の姿を1/600の精度で描いた平面図で、塩硝蔵内の施設状況を良く示す好史料である。同史料には、塩硝蔵の敷地は土居と堀によって区画され、中枢部にさらに堀を廻らせている状況が描かれている。中枢部内には搗蔵、縮具所、調合所、硝石御土蔵2棟などの諸施設が描かれており、この場で火薬の製造が行われていたことが示されている。敷地内の西側には役所と記されている施設が描かれており、ここでは管理・事務処理等が行われていたと考えられる。

発掘調査は平成19年度から実施しており、本年度の調査は第2次調査にあたる。昨年度の第1次調査で検出した礎石群は絵図Dに描かれている硝石御土蔵①の礎石である。また、同様に第1次調査で検出した堀跡は硝石御土蔵①②の後背を走る堀の痕跡である。本年度の第2次調査は、第1次調査で確認した硝石御土蔵①の全体規模を確認すること、および硝石御土蔵②の遺構を確認すること、を目的として、金沢市涌波町癸の休耕果樹園内で実施した。調査の結果、第1次調査で検出した硝石御土蔵①の礎石の続きを検出し、その規模を確認することができた。また、硝石御土蔵②については礎石を確認することはできなかったが、土蔵の基壇と思われる盛土を確認した。なお、硝石御土蔵は黒色火薬の原材料の一つである硝石（塩硝）を保管・管理していた土蔵と考えられている。

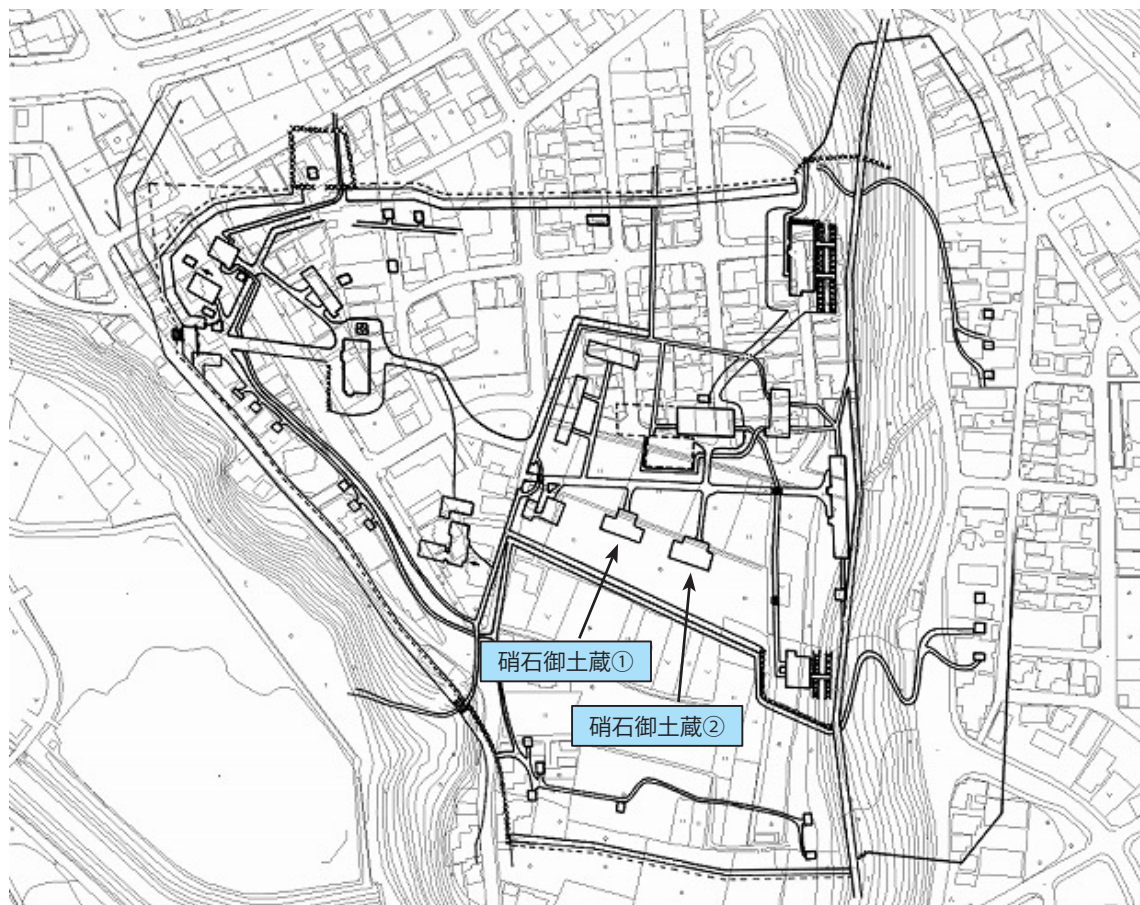
硝石御土蔵①は、黒色粘質土に砂利を混ぜ込んだ土を約30cmの高さに土盛りして基壇とし、立ち上がりに土止めのための石列を配置する。基壇の上には土蔵の束柱を据えるための礎石が等間隔に

配置される。第1次調査で東西方向に11個、南北方向に5個の礎石を確認しているが、第2次調査では東西方向にさらに14個の礎石を確認し、硝石御土蔵①全体で東西方向に計25個の礎石が列ぶことが判明した。併せて硝石御土蔵①西端の礎石列を確認し、南北方向に9個の礎石を確認した。礎石間距離は南北・東西とも91cm(3尺)間隔となっており、この結果、硝石御土蔵①の礎石は南北方向に7.2m、東西方向に21.8mの範囲で据えられていることが判明した。これを尺貫法に換算すると南北4間、東西12間となり、礎石の配置される面積は48坪となる。絵図Dは1/600の縮尺で描かれており、ここから硝石御土蔵①の面積を計算すると東西方向に12間、張出部を含めない南北方向には4間の規模で描かれており、発掘調査で確認した規模と一致する。なお、土蔵を据えていた基壇の規模は東西約28m、南北約13mの規模がある。

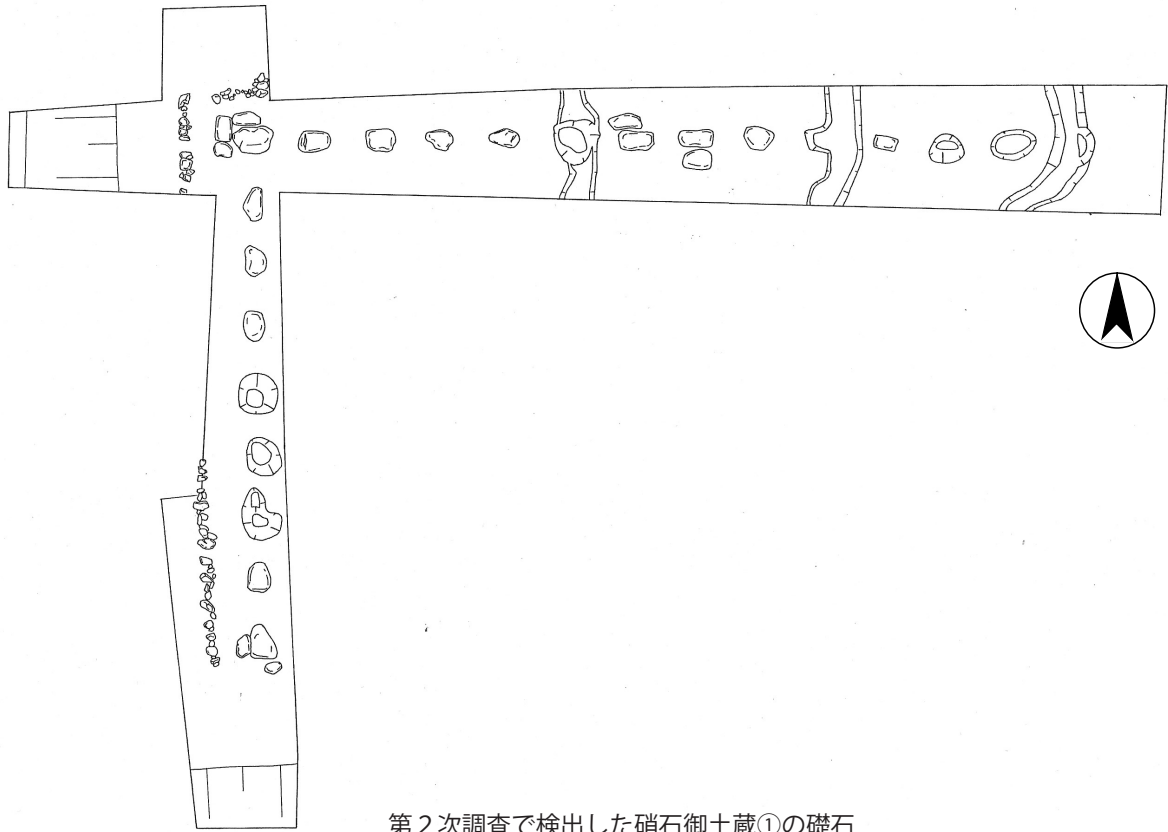
硝石御土蔵②は硝石御土蔵①の西に隣接して配置されていた建物で、後世の削平によるためか礎石は検出されなかったが、基壇と思われる土盛の痕跡を確認することができた。検出した基壇は東西に約28m、南北に約14mの規模と推定され、硝石御土蔵①の基壇規模とほぼ同一である。基壇の土質は硝石御土蔵①と同様に砂利を混ぜ込んだ黒色粘質土で、基壇の末端にはやはり土止めの石列を配置する。基壇の規模から見て硝石御土蔵①と同規模の土蔵が建てられていたと推定される。

遺物は昨年度調査と同様に大量の屋根瓦が出土している。種類も昨年度と同様に平瓦、丸瓦、軒平瓦、軒丸瓦、棟瓦を確認しており、硝石御土蔵には本瓦葺きの屋根が使用されていたことが事実となった。その他に棧瓦が1点出土しており、硝石御土蔵近辺に棧瓦葺きの屋根を持つ施設の存在が想定される。また、梅鉢紋を陽刻した軒平瓦も昨年度調査と同様に数点出土している。

江戸時代の黒色火薬製造所である土清水塩硝蔵は全国的に見ても希有な文化遺産である。今後も発掘調査を含めたさらなる詳細調査を実施して様々なデータを収集していきたい。



絵図Dのトレースと都市計画図の重ね合わせ図



硝石御土蔵① 基壇



硝石御土蔵① 礎石



硝石御土蔵② 基壇



硝石御土蔵② 瓦出土状況

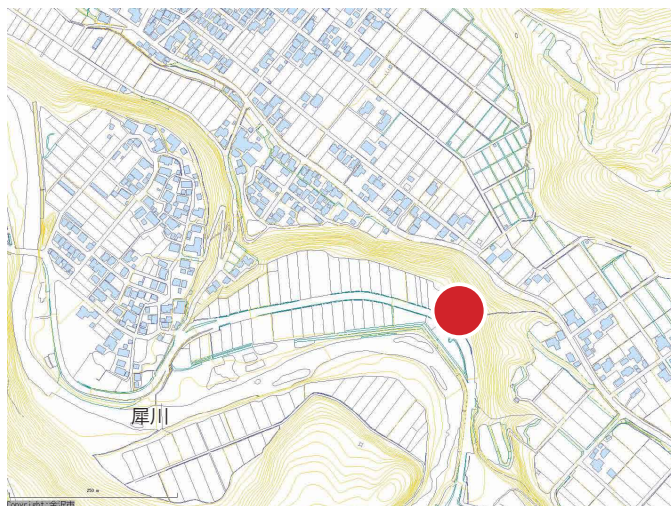


## 8. 上辰巳カズコズ遺跡 (三段石垣地点)

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市上辰巳町地内  
北緯 36° 30' 26"  
東経 136° 42' 14"

調査面積：40m<sup>2</sup>  
種別：用水  
主な時代：近世  
担当：谷口 主査



### 遺跡の概要

平成 20 年 12 月に上辰巳町地内に所在する上辰巳カズコズ遺跡、通称「三段石垣」とよばれる辰巳用水に関連した石垣について、石垣の上面と最下段にそれぞれトレンチを設ける調査を実施した。トレンチ設定位置は石垣の東角より金沢方向に 40 m の地点で、幅 1.5 m 長さ 4 m の規模とした。

下段のトレンチは調査に着手した時点ではススキや雑草などが繁茂する荒地となっていたが、以前は水田が営まれていたとのことで、畔状の高まりを平坦部の脇で確認することができる。表土は旧水田の耕作土壌であると思われる。遺物の出土は全く見られなかった。堆積土のうち最も厚いのは灰色砂礫土で、1m ほどを確認している。灰色砂礫土の下には褐色粗砂があり、湧水が激しく、小一時間ほどでトレンチは水没するありさまであった。最下段の石垣は地表面上から 9 個 (列) 数えることができるが、今回の調査で、更に 4 個 (列) あることがわかった。河川礫を用いた石垣は打ち欠いた面を表面にして積み重ねられており、上 9 個 (列) と同じである。石の大きさは長軸で 40 ~ 60cm で、大きさが揃えられている。最下段の石の下について可能な限り掘削を行ったが、石垣の基礎となるような杭などは見当たらなかった。石垣の間からも水が湧くため、状況確認が非常に困難な調査であった。

最上段の石垣上の平坦面でトレンチ調査を実施した。用水が開渠部から暗渠に切り替わる地点で幅 1 m、長さ 4 m の規模で調査を行った。表土は暗褐色腐食土で、崩落によるとみられる黄褐色の軟質砂岩の塊が散見できた。次いで、褐色砂礫土が堆積し、この下に岩盤である黄褐色の軟質砂岩があった。この岩盤を基礎として瀬領石を板状に加工した石材で天井を葺いているとみられる。石垣の裏込めは地表面より 50cm 下位で確認した。径 10 ~ 30cm ほどの円礫が埋められており、石と石との間に隙間があることも分かった。



「三段石垣」全景



下段トレンチ石垣検出状況

## 9. <sup>たかやなぎ</sup>高柳遺跡

〈遺跡番号 新発見のため番号なし〉

所在地：金沢市高柳町地内

北緯 36° 35′ 40″

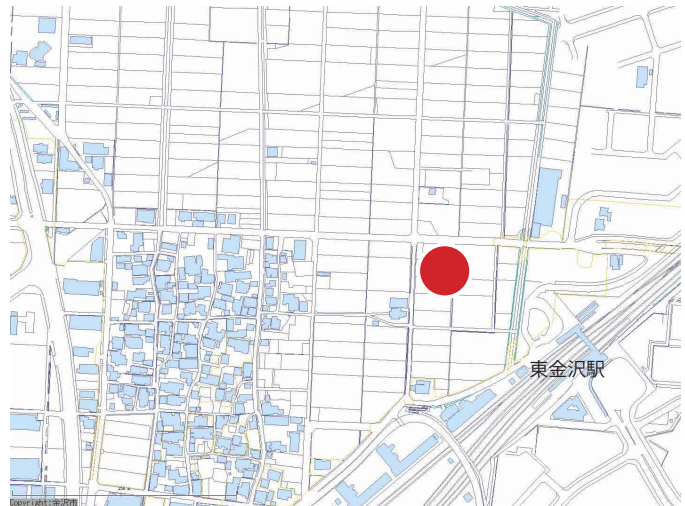
東経 136° 40′ 6″

調査面積：710㎡

種 別：集落

主な時代：古墳時代・古代・中世

担 当：谷口 主査



### 遺跡の概要

平成 20 年 12 月末に高柳町地内の道路工事現場にて遺跡が発見された。確認調査を実施した結果、溝跡、穴跡などが確認され、遺物から古墳時代、古代、中世の集落跡が分布していることが予測された。新規に発見された遺跡のため、町の名前をとり「高柳遺跡」として県に通知し、平成 21 年 1 月に発掘調査を実施した。

調査は道路の路側（側溝と歩道）部分を対象に実施した。道路は都市計画道路と東金沢駅を結ぶ新設路線で、水田を北西方向から南東方向に縦貫している。遺跡の分布は現用道路を挟んで 2ヶ所に分かれるので、便宜的に現道南側で駅舎に近い方を 1 区、現道南側で都市計画道路に近い方を 2 区として調査を行った。

1 区の路側調査のうち、東側では中世の穴や溝を確認した。穴からは漆器片や箸状木製品などが出土し、西側でも同様に穴や溝、柱根などが出土している。柱根は角材で柱穴の上部に位置していた。このほか、珠洲焼の破片なども確認している。2 区では古墳時代の溝を確認した。溝の中から古墳時代の土師器破片がまとまって出土している。また 2 区の北側は落ち込みへと変化するので、遺跡の境界に相当する地点と推測できた。



調査地点全景



遺構検出時の状況

## 2. 埋蔵文化財分布調査事業

### (1) 平成20年度埋蔵文化財分布調査の概要

金沢市では、公共事業に関する土木工事や建設工事等および民間の開発行為や農地転用の際に、事前に遺跡地図に基づく図面調査、実際の開発予定地における現地踏査、試掘確認調査等を実施し、埋蔵文化財の有無を確認している。

平成20年度は市施工の公共事業14件、民間の開発行為・農地転用39件について、埋蔵文化財の有無を調査した。以下はその一覧である。なお、平成19年度金沢市埋蔵文化財調査年報未掲載分として市施工の公共事業1件、民間の開発行為・農地転用4件があり、併せて掲載した。

#### ■公共事業に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	年度	場所	事業名	担当課	回答日	面積	調査方法	有無	対応(遺跡名)
1	H19	駅西新町 3丁目1001	姉妹都市公園 全州市コーナー整備	緑と花の課	3月18日	1,500㎡	試掘	無	支障無し
2	H20	寺中町イ地内	西部図書館建設工事	企画調整課	5月16日	1,500㎡	試掘	有	保護層にて保存 (寺中南遺跡)
3	H20	寺地1丁目 15地内	児童相談所 一時保護施設建設工事	こども総合 相談センター	5月21日	783㎡	試掘	無	支障無し
4	H20	大河端町西 地内	副都心北部大河端土地 区画整理	市街地再生課	6月6日	9,892㎡	試掘	無	支障無し
5	H20	小豆沢町ヲ4	キゴ山再整備	生涯学習課	6月25日	2,390㎡	踏査	無	支障無し
6	H20	天池町3 地内	天池線道路改良工事	道路建設課	7月16日	250㎡	踏査	無	支障無し
7	H20	玉川町2-2	玉川こども図書館整備	玉川こども図書 館開設準備室	7月14日	6,920㎡	試掘	無	支障無し
8	H20	粟崎4丁目 80-1	北部地区ものづくり交 流会館整備	ものづくり 政策課	9月19日	17,571㎡	試掘	無	支障無し
9	H20	武蔵町地内	武蔵地区住宅市街地総 合整備	市街地再生課	11月28日	63,000㎡	試掘	無	支障無し
10	H20	大河端町西 地内	副都心北部大河端土地 区画整理	市街地再生課	10月14日	166,000㎡	試掘	無	支障無し
11	H20	直江町地内	副都心北部直江土地 区画整理	市街地再生課	11月7日	426,000㎡	試掘	有	発掘必要 (直江南遺跡) (直江西遺跡) (直江ニシヤ遺跡) (直江ボンノシロ遺跡)
12	H20	河原市町ホ 123-1,123-2	(仮称)新道路管理事 務所建設	営繕課	11月7日	3,674㎡	試掘	無	支障無し
13	H20	本多町3丁目 4-20	鈴木大拙記念館(仮称) 整備	企画調整課	11月18日	5,700㎡	試掘	有	発掘必要 (本多町3丁目遺跡)
14	H20	高柳町33-1, 47～50	東金沢駅西通り線道路 築造工事	道路建設課	12月26日	710㎡	試掘	有	発掘必要 (高柳遺跡)
15	H20	大友町ハ、ニ	副都心北部大友土地 区画整理	市街地再生課	3月16日	106,000㎡	試掘	有	発掘必要 (大友A遺跡)

■民間の開発行為に係る埋蔵文化財調査一覧

ID	年度	場 所	行為の内容	申請日	回答日	面 積	調査方法	有無	対 応 (遺跡名)
1	H19	無量寺町ナ 66-1 ほか 2 筆	分譲宅地建設	2月19日	2月28日	1,800㎡	試掘	無	支障無し
2	H19	駅西本町1丁目1019	駐車場建設	3月13日	3月14日	917㎡	試掘	有	保護層にて保存 (駅西本町1丁目遺跡)
3	H19	横川5丁目20,21	福祉施設建設	3月14日	3月18日	1,500㎡	試掘	無	支障無し
4	H19	松島2丁目122,123	分譲宅地建設	3月21日	3月27日	533㎡	試掘	無	支障無し
5	H20	近岡町963	共同住宅建設	4月2日	4月4日	915㎡	試掘	無	支障無し
6	H20	花園八幡町地内	土砂採取工事	4月21日	4月22日	5,000㎡	踏査	無	支障無し
7	H20	小二又町チ1番ほか5筆 牧町チ115-1ほか4筆	土砂置き場設置	5月1日	5月21日	1,251㎡	踏査	無	支障無し
8	H20	松村6丁目45,46	個人住宅建設	5月19日	6月2日	270㎡	試掘	無	支障無し
9	H20	本江町399	個人住宅建設	5月27日	6月13日	245㎡	試掘	無	支障無し
10	H20	大桑町チ19-1ほか9筆	事務所および 倉庫建設	6月6日	6月13日	1,494㎡	試掘	無	支障無し
11	H20	大額3丁目360,362	共同住宅建設	4月17日	6月19日	1,044㎡	試掘	無	支障無し
12	H20	長土堀3丁目512, 517～520,521-1	共同住宅建設	5月29日	6月19日	2,044㎡	試掘	無	支障無し
13	H20	新保本2丁目501番1	分譲宅地建設	5月23日	6月20日	5,626㎡	試掘	無	支障無し
14	H20	上辰巳町拾字47	個人住宅建設	6月27日	8月6日	505㎡	試掘	無	支障無し
15	H20	浅野本町2丁目 287～289	分譲住宅建設	7月7日	7月16日	1,030㎡	試掘	無	支障無し
16	H20	黒田町2丁目 398,399	宅地分譲	7月7日	7月16日	536㎡	試掘	有	保護層にて保存 (黒田町遺跡)
17	H20	横川3丁目252	分譲住宅建設	3月28日	7月29日	1,127㎡	試掘	無	支障無し
18	H20	金石東1丁目176-1	駐車場建設	7月15日	7月29日	528㎡	試掘	無	支障無し
19	H20	今町ホ15-1	個人住宅建設	7月31日	8月8日	767㎡	試掘	無	支障無し
20	H20	法光寺町54-3	個人住宅建設	8月4日	8月8日	231㎡	試掘	無	支障無し
21	H20	乙丸町丙28,31,32,34	駐車場建設	8月29日	9月9日	1,622㎡	試掘	無	支障無し
22	H20	近岡町140-1	共同住宅建設	9月4日	9月12日	591㎡	試掘	無	支障無し
23	H20	長坂町ヲ79	電話中継基地建設	8月21日	9月12日	9㎡	試掘	無	支障無し
24	H20	小立野4丁目388-1, 389-1,391ないし393	分譲住宅建設	9月5日	9月18日	1,265㎡	試掘	無	支障無し
25	H20	館町ニ17～28 ほか12筆	資材置場設置	8月28日	9月18日	5,143㎡	試掘	無	支障無し
26	H20	矢木2丁目165-22	個人住宅建設	9月19日	10月9日	201㎡	試掘	無	支障無し
27	H20	高尾南2丁目65-11	個人住宅建設	10月9日	10月6日	171㎡	試掘	無	支障無し
28	H20	西泉6丁目135～139	特養施設建設	9月30日	10月14日	3,036㎡	試掘	無	支障無し
29	H20	御供田町ニ50,51 ほか21筆	分譲住宅建設	9月24日	10月21日	2,358㎡	試掘	無	支障無し
30	H20	田上第五土地区画整理地内 34-2街区5,6,7-1,7-2	店舗付共同住宅 建設	10月10日	10月24日	1,455㎡	試掘	無	支障無し
31	H20	戸室新保口78～80,574-1	登記変更	10月3日	10月29日	2,024㎡	踏査	無	支障無し
32	H20	末町参字246-13	井戸掘削	9月2日	11月7日	100㎡	試掘	無	支障無し
33	H20	田上第五土地区画整理地内 13街区16-1,16-2,17	共同住宅建設	10月30日	11月21日	661㎡	試掘	無	支障無し
34	H20	高柳町二字20-1,46 ほか4筆	店舗用敷地造成	11月11日	11月18日	3,500㎡	試掘	無	支障無し
35	H20	松村5丁目46,47	分譲住宅建設	11月10日	11月26日	1,823㎡	試掘	無	支障無し
36	H20	諸江町下丁235-1	分譲宅地建設	12月3日	12月11日	1,565㎡	試掘	無	支障無し
37	H20	弥勒町ワ9～11 百坂町イ地内	分譲宅地建設	12月11日	12月24日	1,682㎡	試掘	無	支障無し
38	H20	三馬1丁目205, 206-2,217-2,218	分譲宅地建設	12月22日	1月8日	1,100㎡	試掘	無	支障無し
39	H20	福増町南354-1,355	分譲住宅建設	11月6日	11月8日	1,178㎡	試掘	無	支障無し
40	H20	八日市3丁目387,386-2	分譲住宅建設	1月23日	2月2日	693㎡	試掘	無	支障無し
41	H20	大額2丁目206	住宅建設	1月13日	2月2日	401㎡	試掘	無	支障無し
42	H20	末町参字246-13	グラウンド造成	3月16日	3月30日	4,500㎡	試掘	無	支障無し
43	H20	馬替2丁目47-1,48	分譲住宅建設	3月23日	3月31日	1,866㎡	試掘	無	支障無し

## (2) 金沢市直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財試掘確認調査結果報告

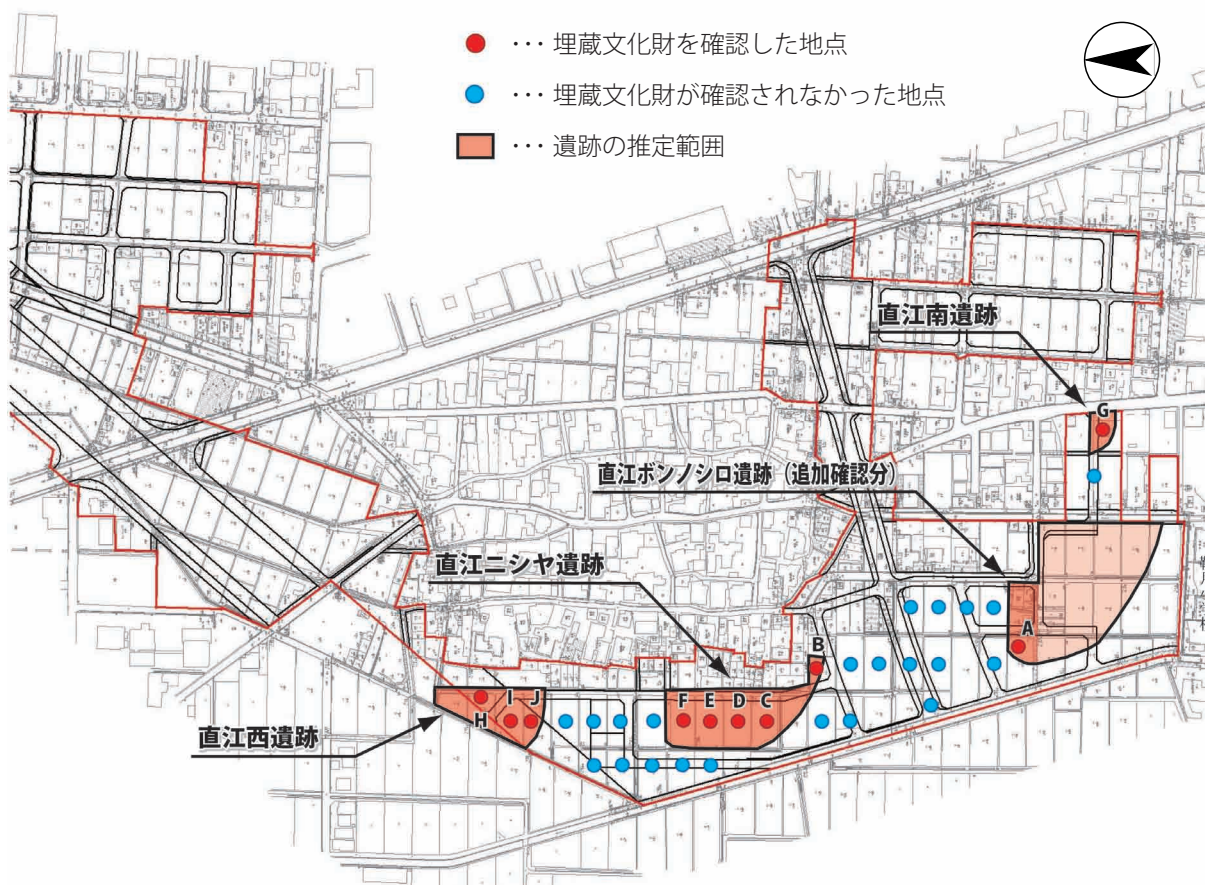
平成 19 年度に引き続き、直江地区土地区画整理事業に先立つ埋蔵文化財の試掘調査を実施した。調査には掘削機を用い、組合役員の立ち会いの下、10 月 14 日・15 日の 2 日間実施した。

試掘した範囲は金沢市直江町の西側に広がる水田地帯である。試掘箇所は合計 32 箇所となった。埋蔵文化財を確認した地点は下図に●で示した地点である。その概要を下表に記す。

今回確認した埋蔵文化財は新発見もの 2 件を含む 4 件である。No.A の試掘孔では平成 19 年度に確認した遺跡（当時は「直江南遺跡」と仮称）の拡がりを確認し、小字名を採って「直江ボンノシロ遺跡」とした。No.B～F および No.G では新発見の遺跡を確認し、前者を「直江ニシヤ遺跡」、後者を「直江南遺跡」とした。また、No.H～J にて平成 18 年度に確認した直江西遺跡の範囲を確定した。いずれの試掘孔からも、掘削土中より古墳時代の甕の口縁破片や須恵器の破片などが確認されており、古墳時代と奈良・平安時代の 2 時期の遺跡が存在するとみられる。

### ■試掘地点の状況

No.	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
深さ (cm)	30	30	40	40	30	30	40	50	70	50
遺構	ピット	ピット	溝・ピット	ピット	溝	河か	土坑	土坑	溝・ピット	溝



試掘箇所と各遺跡の範囲

### (3) 金沢市大友土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財試掘確認調査結果報告

新規の区画整理事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査を実施した。調査には掘削機を用い、区画整理組合役員の立ち会いの下、3月4日に実施した。

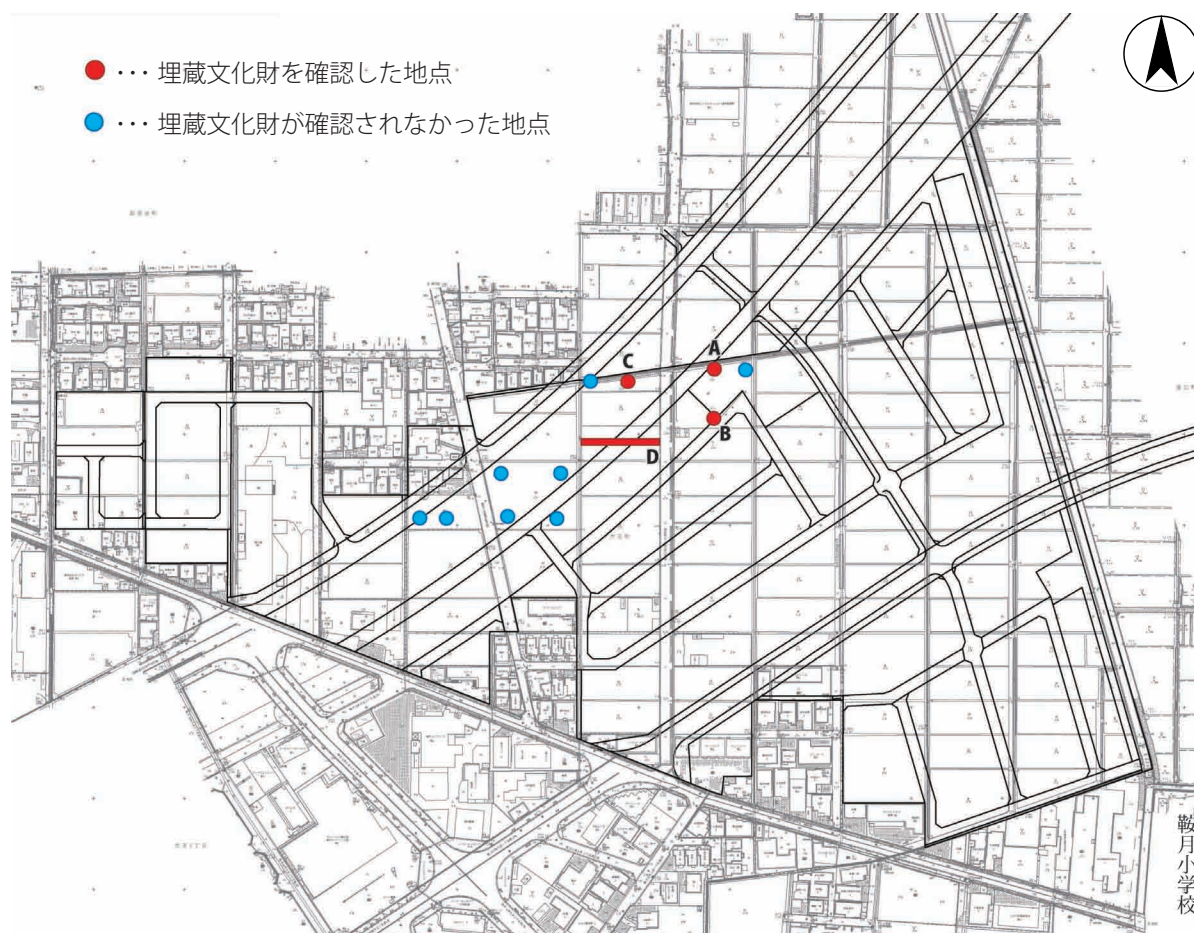
試掘した範囲は金沢市大友町と御供田町の間広がる水田地帯で、区画整理施工区域の一部である。試掘箇所は合計12箇所となった。平成21年度に残る範囲について試掘調査を実施し遺跡の範囲を確定する予定である。

埋蔵文化財を確認した地点は下図に●で示した地点である。試掘時のデータを下表に記す。

今回確認した埋蔵文化財は「大友A遺跡」として周知されているものである。掘削土中に遺物は確認されなかったが、大友A遺跡は昭和57年に金沢市が道路改良工事に伴い発掘調査を実施した経緯があり、その時の調査結果から奈良・平安時代の遺跡が広がっているものとみられる。

#### ■試掘地点の状況

No.	A	B	C	D
深さ (cm)	30	20	20	20
遺構	ピット	溝	ピット	ピット・溝



試掘箇所と各遺跡の範囲

### 3. 教育・普及・啓発活動事業

#### (1) 歴史ふれあい講座

当センターでは平成12年度より、職員が市内の小学校へ出向き、郷土の歴史と埋蔵文化財について児童に講義を行う「歴史ふれあい講座」を行っている。近年、小学校では総合学習の時間を利用して、体験活動を通して郷土の歴史を学ぶ機会が増加しているが、そういった教育の場で当センターがこれまで培ってきた市内における発掘調査の成果を利用した「古代体験」の場を積極的に提供することで、郷土の歴史への愛着と埋蔵文化財への理解を深めてもらうことがこの事業の目的である。

「歴史ふれあい講座」は基本的に小学校6年生を対象とし、開催時期を4～5月としている。これはこの時期が歴史学習の導入時期にあたり、実際に市内各所から出土した土器や石器の実物に触れることで、歴史を肌で感じ、より身近なものとして感じることで、これから始まる歴史学習に興味を持つ機会を創出できるとの考えからである。さらに現在の生活と文化財との接点を意識してもらえるよう、各小学校の校区内に所在する文化財や埋蔵文化財包蔵地を記した「文化財マップ」を配布し、校区内の遺跡から発掘された出土品を展示している。なお1講座あたりの参加児童数は最大50名、所要時間は90～100分である。

近年は市内小学校数の約半数にあたる30校近くから申し込みが寄せられるが、開催希望日が重複する場合が多く、日程調整がつかずに申し込みを断念する場合があります、全ての希望には応えられていないのが現状である。

< 過去5年間の事業実績 >

実施年度	学校数	講座数	児童数
平成16年度	24	51	1,800
平成17年度	23	50	1,716
平成18年度	23	51	1,708
平成19年度	28	58	1,941
平成20年度	28	62	2,063

今年度は年間の参加児童数が2千人を越え、累計参加者数は12,915人となった。開催後のアンケート(回収率86%)によると、「貫頭衣を着て、昔の人の気分が味わえてよかった」(87%)、「自分の家の近くに遺跡があるとわかってよかった」(73%)、「歴史に興味があった」(77%)など、好評を得られたようである。しかし今後の課題となるべき、「土器見学の説明がわかりにくい」(1%)、「校区内の遺跡についてもう少し詳しく説明してほしい」(8%)との意見もあった。



時代の概説



石器を用いたクルミ割り体験



遺物見学



校区の文化財説明



勾玉作り体験



火起こし体験

## (2) 金沢子ども歴史探検隊

当センターでは、平成15年度より、将来を担う子どもたちへさらなる歴史体感の場を提供する事業として、市内の史跡・建造物など実物の歴史遺産をフィールドとした歴史体感活動「金沢子ども歴史探検隊」を実施している。これは、ふるさと金沢の歴史をより理解し、地域と協働して貴重な歴史文化遺産を護ってゆく「金沢型の文化財保存活動」を実現する環境の形成を図ることを目的としている。

今年度は、昨年度好評であった「めざせ金沢城博士!!」と同様、城下町金沢のシンボルであり、平成20年6月に国史跡指定となった金沢城を会場に、金沢城の歴史や石垣を題材とするクイズに答えながら、金沢城を体感するイベントを開催した。今年度の実施概要は以下のとおりである。

なお設問は20問あり、高学年用、低学年用、共通の3種類を用意した。

問題の近くや危険箇所には職員と文化財保護課で育成したボランティア「文化財愛護推進員」が配置された。当日は秋晴れの日で、幸い全員が無事にゴールした。

ラリー後、答え合わせと解説を行い、成績優秀者5名に記念品を贈呈した。

開催日：平成20年11月1日（土）

参加者：小学生および保護者 約60名

開催内容：石垣や金沢城を題材とするクイズラリー

### < 過去5年間の事業実績 >

実施年度	タイトル
平成16年度	「堅田城を歩こう」 「野田山墓地を歩こう」
平成17年度	「考古学とは何だろう」
平成18年度	「めざせ堅田城主!!」
平成19年度	「めざせ金沢城博士!!」
平成20年度	「めざせ金沢城博士!!」Vol.2



会場見取り図を兼ねた解答用紙の裏面

### 「めざせ金沢城博士!! Vol.2」 出題問題抜粋

問題5 ※高学年用問題

前に見える三十間長屋の屋根瓦は、何でできている？

- A 銅（どう）      B 鉄（てつ）      C 鉛（なまり）

問題11 ※共通問題

前に見える石垣は大手門と呼ばれている門の跡だが、江戸時代は何と呼ばれていた？

- A 尾山（おやま）門      B 小坂（こさか）門      C 尾坂（おさか）門

問題17 ※共通問題

この辺り（三ノ丸北東部）ではあるものを作っていたことが発掘調査結果でわかっているが、それは何？

- A 槍（やり）      B 刀（かたな）      C 鉄砲（てっぽう）

※解答は最終頁に記載しました。



### (3) 市民ふるさと歴史研究会

当センターでは、一般市民を対象に埋蔵文化財に対する理解と愛護精神の醸成を目的として、発掘調査の成果を解説する講座「市民ふるさと歴史研究会」を平成16年度より年1～2回開催している。今年度および近年の開催概要は以下のとおりである。

第9回市民ふるさと歴史研究会「水辺に暮らす縄文人～中屋サワ遺跡の発掘調査～」

会場：金沢市埋蔵文化財センター 映像学習室

開催日：平成21年3月28日（土）

内容：報告「中屋サワ遺跡にみる縄文人の暮らし」 谷口宗治（金沢市埋蔵文化財センター）

講演「北陸地方の縄文時代晩期の様相」 山本直人氏（名古屋大学文学研究科教授）

遺物見学

参加者：約40人

#### < 過去5年間の事業実績 >

実施年度	回数	タイトル	対象となった遺跡
平成17年度	第5回	金沢の起源と日本海交流	高岡町遺跡
平成18年度	第6回	金沢の遺跡は語る	福増カワラケダ遺跡 南新保北遺跡
	第7回	荘園の考古学	上荒屋遺跡
平成19年度	第8回	金沢の城下町遺跡は語る	野田山・加賀藩主前田家墓所 金沢城惣構跡 広坂遺跡
平成20年度	第9回	水辺に暮らす縄文人	中屋サワ遺跡

今回の内容は、平成20年度末に金沢市が刊行した報告書『中屋サワ遺跡Ⅳ－縄文時代編－』（金沢市文化財紀要255）の報告内容に基づくものである。

中屋サワ遺跡は縄文時代晩期の集落で、発掘調査では調査区内を縦断する河跡に設置された木組みの遺構（右写真）や杭列、河岸に連なる貯蔵穴などが検出された。また河底から大量の堅果類、土器、石器、木製品、漆製品が出土した。調査期間は平成13～16年。

まず谷口が、これらの遺構や遺物の写真を示しながら調査成果を報告した。講演では山本直人氏が縄文時代研究の最新情報や北米の先史遺跡との比較を通して当時の社会や生活について解説された。さらに、縄文時代晩期は縄文時代から弥生時代へ、つまり狩猟採集経済から農耕経済への移行を控えた時期であり、この時期にチカモリ遺跡をはじめ北陸地方以北に見られる環状木柱列遺構について、新しい時代の潮流に対抗すべく集落内の絆を強めるために作られた建物であるとの見解を示された。

第9回 市民ふるさと歴史研究会

## 水辺に暮らす縄文人

－中屋サワ遺跡の発掘調査－



**講演** 北陸地方の縄文時代晩期の様相  
山本直人氏(名古屋大学教授)

**報告** 中屋サワ遺跡にみる縄文人の暮らし  
谷口宗治(金沢市埋蔵文化財センター)

平成21年 **3月28日** 土 13:30～16:00  
金沢市埋蔵文化財センター 2階 映像学習室

電話/FAX/メールにて下記まで申し込み下さい。  
・FAX/メールの場合はお名前とご連絡先を明記してください。  
・定員(40名程度)に達し次第締め切ります。

～お問い合わせ先～  
金沢市埋蔵文化財センター 〒920-0374 金沢市上安原南6-0  
Tel 076-269-2451 Fax 076-269-2452  
e-mail: maibun@city.kanazawa.lg.jp



開催案内チラシ

## (4) 史跡活用事業

当センターでは史跡活用事業として、史跡を舞台とした各種イベントを開催している。これは一般市民を対象に郷土の歴史・文化と埋蔵文化財についての理解を深めてもらうことを目的とし、イベントを通じて文化財愛護の精神を培う機会の創出を図るものである。小学校高学年～中学生とその保護者を主な対象としており、親子のふれあいを提供する場にもなっている。各イベントの実施概要は以下の通りである。なお、開催にあたって石川県史跡整備市町協議会から助成金を受けている。

### 【史跡フェスタみわ】

初期荘園の風景を再現した上荒屋史跡公園を会場に、奈良・平安時代の生活を体験するイベントを平成9年度より行っている。

会 場：上荒屋史跡公園  
(国史跡「東大寺領横江荘遺跡上荒屋遺跡」)

実 施 日：平成20年7月21日(土)  
主な内容：古代衣裳試着体験 古代食試食体験  
火起こし体験 勾玉作り 土器作り  
まゆ糸取り体験 等

参加者：120名

委託先：金沢市三和公民館振興協力会



復元荘家で古代衣裳体験(史跡フェスタみわ)



縄文食の調理(チカモリ縄文まつり)

### 【チカモリ学習会】

チカモリ縄文まつり(下記参照)の一環として、地域住民にチカモリ遺跡および縄文時代の生活について理解を深めるための学習会を下記のとおり開催した。

実 施 日：平成20年7月28日(土)  
主な内容：チカモリ遺跡について  
縄文時代の生活について

講 師：谷口主査

参加者：約40名



縄文人コンテスト(チカモリ縄文まつり)

### 【チカモリ縄文まつり】

縄文時代の遺構を復元したチカモリ遺跡公園を会場に、縄文時代の生活を体験するイベントを平成7年度より行っている。

会 場：チカモリ遺跡公園(国史跡「チカモリ遺跡」)

実 施 日：平成20年8月5日(日)

主な内容：火起こし体験 勾玉作り 土器作り 縄文食試食体験 編み物体験 縄文クイズ  
縄文人コンテスト 等

参加者：約300名

委託先：金沢市西南部公民館振興協力会

## (5) 現地説明会

発掘調査の成果を市民に還元する方法の一つとして、発掘調査現地説明会がある。実際に発掘調査を行っている現場を直に見学する現地説明会は埋蔵文化財を身近に感じることのできる最良の方法の一つである。

本年度は、昨年度から引続き調査を行っている**涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）**において現地説明会を開催した。開催概要は以下のとおりである。

実施日：平成20年11月29日（土）

午前1回、午後1回

主な内容：出土品の見学および解説

遺構の見学および解説

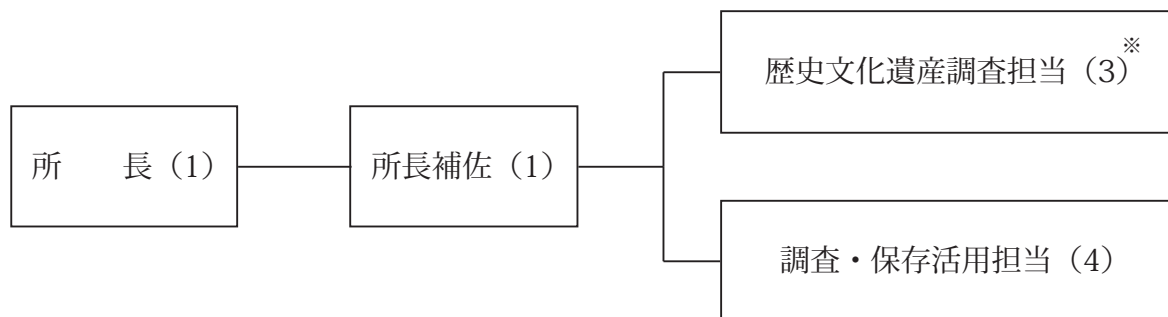
参加者：合計約100名



涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）現地説明会

## 4. 組織

( ) 内は員数



※ 文化財保護課兼務1名を含む

### P22 「目指せ金沢城博士!! Vol.2」出題問題抜粋 解答

- 問題 5 C (三十間長屋や石川門の屋根は鉛瓦で葺かれている)
- 問題 11 C (江戸時代は「尾坂門」と呼ばれていた)
- 問題 17 C (発掘調査で鉄砲鍛冶跡が検出されている)

平成 20 年度

## 金沢市埋蔵文化財調査年報

発行 金沢市

編集 金沢市埋蔵文化財センター

〒 920-0374

金沢市上安原南 60 番地

TEL 076-269-2451

FAX 076-269-2452